

10月28日(金)の協議会でいただいた質問です	回答
Googleキャストの使用より、子供の画面をスクリーンに共有する方法に驚きましたGoogleキャストは他にどのような活躍方法をしていますか？本日はお忙しい中授業公開をありがとうございます。	Googleキャストは、児童の端末画面を全体に共有する際に活用していますが、それ以外の活用方法は模索中です。
不登校及び欠席児童に対しての ict活用はどうされてますか？	オンライン授業はいつでもできる状態ですが、必要に応じて行うこととしています。今のところ、欠席・不登校児童とはクラスルームで授業の内容についての共有や、AIドリルでの課題提示などが主な使い方です。日常的には保護者とは連絡アプリを使用して、出欠席の連絡や持ち物の確認をしています。
端末の画面は満足できる大きさだと思いますが、教室前面の提示画面が小さいように思います。また、画面の最大化など、先生方がなるべく大きく見せようという意識もあまりないように思いました。端末側で表示ができれば、画面共有ができれば、前面で大きく映す必要は特に重要視されていないのでしょうか。	学習環境を整えるところに、まだまだ課題を感じています。「大きく見せる」「同じものを見せる」についても現職教育や学年会を通して引き続き、すべての教師ができるようにしていきたいと思います。
1.2年生は電子黒板で3年生以上は、スクリーンでしたが、何か狙い等があるのですか	全教室スクリーンにしていく流れですが、年度当初に相談し、見やすさや扱いやすさから、低学年はプラズマテレビを使用しています。よりよい活用につながるよう到来年度も検証・検討していく予定です。
教科担任制ということでしたが、対象学年と教科について教えてください。	5、6年生:算数・外国語・体育・社会・図工・理科・音楽です。専科が入っているのは理科・音楽のみです。他の教科は学年の先生が担当の教科を決めて行っています。例えばA先生が6年生の外国語を週に2 H×4クラス分など。
個別最適な学習実現への ICT活用、協働的な学び実現への ICT活用について、共通点と相違点を簡単に紹介していただけると幸いです。	共通点は、学びの効率化が図られることだと思います。相異点については、個別最適な学びは、「指導の個別化」という教師側の視点と「学習の個性化」という個の児童側の視点があり、それを認識した上で、必要なICTを活用することが大切であり、協働的な学びにおいては、児童同士の対話を可視化する思考ツールの選択が大切と考えています。
タブレットのみでまとめたりする場合、学びが蓄積されるのはタブレットだけになってしまいがそれでよいのか。ノートとタブレットの使い分けはどうすればよいのか。	児童・教師の共有資料となるものはタブレット活用、個人的な学びの資料はノート活用といった使い分けが必要と考えています。
本日はありがとうございました。児童のタイピング能力や、操作精度などは通常の授業だけで、勝川小学校の5,6年生のような能力が身につくのでしょうか。それとも、総合的な学習の時間で習得していくのでしょうか。	特別にタイピング技術向上のための時間は設けていませんが、授業中にテストや課題が早く終わった児童は個別にタイピング練習のアプリを活用して練習をしています。家庭でもタブレットPCを持ち帰った時などは、練習しても良いこととしています。アプリはタイピング技術が上達すればするほど級が上がっていくものなので、上達したいという学びに向かう態度が養われるのかもしれません。
板書についてお聞きしたい。今日は黒板に課題しか書いていないクラスもあれば子供の意見を紙で残しているところもありました。授業の内容にもよるが、勝川小学校では残さなくてもいいよという共通理解をしているのかお聞きしたい。	アナログ的な黒板の利点とデジタル的な黒板の利点を考え活用するよう意識しているところです。
5年生の国語で子どもたちが持っていた統計資料は、どのように集めたのでしょうか？決められたテーマの中で子どもたち自身が調べて選んできたのか、教師が提示したものから選んだのか、子どもたちが調べたとしたら指定したサイトがあるのか、教えてください。	児童一人ひとりが集めた資料です。2つの方法から集めさせました。①ネットから自由に拾ってくる(Googleのキーワード検索)②社会のデジタル教科書からグラフや表を拾ってくる ①②それぞれ、画面をキャプチャーし、各々のスライドに貼り付けました。指定したサイトは特にありません。①の方法については自由度が高い分、探す方法がわからないといった子もいたので、支援の方法として、画像検索で「グラフ」と入力し表示されたものの中から、興味のあるものを選ぶよう指示しました。
ICTの活用やメディアリテラシー教育について、年間指導計画はどのようになっていますか？	参考に見てください https://drive.google.com/file/d/1lyh8yylvu2EEUdDk5bnwoXHjginmDaRou/view?usp=share_link https://drive.google.com/file/d/14SIGztpEDApDBcWdLmzeJFn-UluD7o8r/view?usp=share_link

10月28日(金)の協議会でいただいた質問です	回答
授業の振り返りでICTを活用したい。今日参観した授業では、ノートやワークシートに記記入し全体発表していた。もっと活用できる事例があれば教えていただきたい。	スプレッドシートに記入させる方法、グーグルフォームに回答させて集約する方法は多くの学級で実践しています。
生徒の休み時間のタブレット端末の使用は、どのようなルールですか？休み時間に、できなかった課題に取り組ませられると良いなとおもいます。	休み時間については、雨の日などは使って良いことになっています。給食後の空いた時間などにタイピング練習や、課題に取り組んでいます。
基礎的スキルを習得するためには、どうしてもictを使うことが目的になると思います。たくさん使うというプロセスに振り切れた先生方の素直な気持ちが聞きたいです。	校務の情報化が進み、先生たちが便利だから使ってみようと思ったからだと思いません。市の研修や現職教育の推進を通じて、一部のICTが得意な先生が使うのではなく、いつでもだれでも使える環境が整ったのが大きな要因だと思います。
一人一台端末があると、インターネットを使って調べる学習に流れがちですが、勝川小学校ではそうではなく整理分析やまとめ表現の段階でうまく活用されていると感じました。情報収集の段階ではどのように一人一台端末を活用しているのか教えていただけたらと思います。	情報端末等を用いて写真・動画等の詳細な観察情報を収集・記録・保存することにより、細かな観察情報による新たな気づきができるように活用させています。また、インターネット検索だけでなく、デジタル教材等を用いて、効率のよい調査活動と確かな情報収集を行うことにより、情報を主体的に収集・判断する力を身に付けることが可能となります。
時計が前でなく横にあったのはなぜ？テストの時などは時計を前に移動させるのですか？	学年の実態に応じてテスト中は、時間を拡大してスクリーンに映す、教師が残り10分などと声をかけることをしていると思います。
習っていない漢字もタブレットだと変換できちゃいますが、そうすると、共有したときに他の子がその字を読めない。習っていない漢字の変換についてどうしていますか？	基本的には、学年ごとに習得済みの漢字を使用すべきですが、習っていない漢字でも、読めない人はその場で聞く・調べるのが大切だと考えています。
タブレット端末を活用して保護者や家庭と連携できることはありますか？	タブレット端末というよりか、クラウドを通して情報共有や協力を求められます。AIドリルを家庭学習で使用することもあります。保護者とはホーム&スクールというアプリで欠席連絡・アンケートなどで活用し、リアルタイム双方向でつながっています。
分析において大切なことは何か教えていただきたいです。	思考の視点を明確にすること、協動的な学びで思考を深めること、合意形成の視点を持たせることです。
三年生の授業を拝見させて頂きました。子供達のダイビングの速さに驚きました。1人の画面をキャストしてスクリーンで皆で共有するのが良かったです。また、最後に各人がエクセルで授業のまとめを書くのも良いと思いました。	ありがとうございます。
・教職員のマインド(授業観、学習観)をどう変化させたかが知りたい。	国の動向や市内の取り組みについて、情報共有する。部活を教員の手から離し、本来の教育課程の取り組みに専念することを保護者にお知らせする。
・教職員研修(構想、戦略、計画、予算、研修内容、推進スタッフなど)	こちらを参考にしてください。 https://drive.google.com/file/d/1hznPq6VP4PLz4XJK6Q9tdJh8zQ3pWpOU/view?usp=share_link
・健康教育(目、姿勢など)の実践。＊タブレット端末活用による健康被害防止の視点	今年度は学校保健委員会で、姿勢について専門の講師を招いて講演をしてもらいました。保健に関する指導の重点に組み込んでいます。
・家庭への持ち帰りをする上での、各家庭のWi-Fiの整備(市、学校の家庭への働きかけ 普及啓発 補助 など)	令和3年度までは市で貸し出し。令和4年度からは有料で貸し出しています市が予算配置し、市が保護者への働きかけの文書を作成していただいた。
今日は授業を見せていただき、ありがとうございました。ICTを活用すると、板書する時間が十分に取れず、乏しい黒板になってしまいます。何を黒板に残すかなど、黒板とICTのそれぞれの強みを活かした使い分けはどのように工夫していますか。	学年の実態、教科に応じて、使い分けています。情報を共有したり、共同編集したりする場面ではICTを活用し、ノートに残したい内容は黒板に残しています。